

第11回総合教育会議会議録

日時：平成28年3月24日（木）

午後4時00分開会

場所：津リージョンプラザ2皆

第1会議室

出席者	津市長 前 葉 泰 幸
	津市教育委員会 委員長 庄 山 昭 子
	委員 上 島 均
	委員 松 本 昭 彦
	委員 滝 澤 多佳子
	教育長 石 川 博 之

教育次長 それでは定刻になりましたので、前葉市長から第11回津市総合教育会議の開会のごあいさつをお願いいたします。

市長 只今より、第11回津市総合教育会議を開催いたします。

教育次長 ありがとうございます。それでは、本日の「協議・調整事項」といたしましては、「平成28年度に向けて」の1件でございます。早速、入りたいと思いますので、まずは、事務局の方からご説明させていただきたいと思います。

教育事務調整担当参事（兼）教育総務課長 それでは、本日の事項「平成28年度に向けて」について、ご説明申し上げます。お手元の資料1「教育委員会事務局 平成28年度当初予算の概要」をご覧ください。事務局からは、これまでの総合教育会議との関連も踏まえながら、ご説明を申し上げます。まずは、「教育委員会事務局の平成28年度の当初予算の概要」でございますけれども、右肩にございますように、平成28年度の予算総額は、98億3,325万6千円で、昨年度比6億7,665万3千円の減でございます。こちらの資料では、4つの柱に整理させていただいております。

「教育環境の整備」についてでございます。第2回と第3回の総合教育会議においてご議論をいただいておりますが、全ての小中学校普通教室のエアコン整備に着手させていただこうとするものでございます。平成28年度については、全ての中学校にエアコンを設置するための設計費用として2,580万円を計上させていただいているもので、この設計が終わり次第、平成28年度の補正予算において、工事請負費を計上させていただきたく考えております。それによりまして、昨年度の当初予算額と同様の規模になるものと推測しております。次に、美里地域の義務教育学校の開校に向けた取組についてですが、平成26年度に校舎増築の設計に着手いたしまして、当該増築工事は完了いたしました。平成28年度については、現行校舎の改修工事、プールの新設工事、駐車場整備などを行おうとするものでございます。また、学校再編に伴いスクールバスの購入などの通学対策を行っていこうとするものでございます。なお2億8,389万1千円には含まれておりませんが、土木費において予算計上し、関連する通学路について狭隘箇所を改修するなど、その整備も併せて行おうとするものでございます。

計画的な施設整備といたしまして、これまで実施してきました一志中学校の大規模改造や校舎増築、トイレの洋式化などの工事を着実に進めていこうとするものでございます。また、新たに大規模改造工事に着手する新町小学校につきましては、第6回の総合教育会議で、学校施設の活用に配慮した大規模改造工事

について、ご議論いただきましたが、校内に放課後児童クラブを整備するとともに地域活用エリアや災害時情報収集及び要配慮者避難エリアを設けるなど、地域での学校施設の活用に配慮した設計計画を踏まえ、着手しようとするものでございます。これらの事業は、小中学校大規模改造等として15億1,279万2千円を計上させていただいております。

次に、「学力向上の推進」についてでございますが、第6回の総合教育会議で、平成27年度全国学力・学習状況調査結果について、ご議論をいただき、第7回の総合教育会議において、当該調査結果を踏まえた平成28年度学力向上推進施策のあり方についてご議論をいただきました。学力向上の推進につきましては、平成28年度から、本市教育委員会が主体となって行う3年間の集中的な授業改善への取組といたしまして、各校の授業改善の指針となる「津市版授業改善マニュアル」を作成し、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果分析から検証までの授業改善サイクルの構築を図ろうとするものでございます。また、英語教育の重要性に鑑み、新しい時代を切り拓く「英語教育」の推進として、外国の小中学生とパソコンの通信ソフトを活用した英会話の交流機会を創設するものでございます。さらに、実効性のある授業改善を進めていくために、指導主事が主要な教科を専任的に担当できる体制を整えながら、各校への訪問による校内研修への一層の支援・指導の拡充を図ろうとするものでございます。学校現場への人的な支援施策といたしまして、各校に配置する津市臨時講師のうち、「課題対応講師」の配置時間数を見直すことにより「学力推進講師」を6人増員し、18人に充実しようとするとともに、特別支援教育支援員を10人増員し166人に充実しようとするものでございます。これら「学力（総合型）向上推進事業等」としまして、4億1,436万1千円を計上させていただいております。

次に、「放課後児童クラブの運営支援等」についてでございますが、第4回の総合教育会議で、県政要望への状況を踏まえ、ご議論をいただき、第7回の総合教育会議で、放課後児童クラブの現場の声を踏まえた取組の重要性や12月議会での補正予算の計上について、ご議論をいただきました。その後、12月議会において補正予算をお認めいただき、ひとり親家庭支援などが形になってきたものでございまして、来年度についても、その取組を継続していこうとするもので、3億1,821万6千円を計上させていただいております。また、放課後児童クラブの施設整備については、村主放課後児童クラブの新築に向けた施設整備費としまして、4,802万2千円を計上させていただくものでございます。

次に、「社会教育の充実・文化財の保存活用に向けて」についてでございますが、公民館のあり方については、第8回の総合教育会議でご議論をいただきましたが、(仮称)津市の公民館事業のあり方検討委員会を立ち上げ、今後の公民館

のあり方全般について、ご議論をいただこうとするもので、検討委員会の経費として32万4千円を計上させていただいております。旧明村役場庁舎の整備活用については、第2回の総合教育会議でご議論をいただき、保存活用計画策定に係る費用について、昨年6月議会において補正予算をお認めいただきましたが、平成28年度につきまは、さらにステップアップといたしまして、実施設計の作成などの取組を行おうとするもので、1千276万6千円を計上させていただいております。以上を持ちまして、事務局からの説明を終わらせていただきます。よろしくご協議いただきますようお願い申し上げます。

市長 ありがとうございます。資料1に基づいて説明がございましたが、それぞれ総合教育会議でも議論をしてきたことについて、平成28年度の形としてこういう展開をしていくんだということの説明でありました。市議会では、委員会での議論が終わって、最終的に本会議で議決されれば、その金額で来年度スタートすることになります。従って、実行する段階に向けて、各教育委員の皆さん方、こういうところをしっかりと留意して進めるべきだとか、もっと極端なことを言えば、まだまたこういう部分の予算が足りないとか、抜け落ちてないか、あるいは、充実させた部分について、しっかりと実行するよにといった背中を押していただくようなお話もあるかもしれません。様々な角度からのご意見があるかと思いますが、厳密には議決前ではありますものの、執行前のこの段階でご議論をいただいておりますというのが本日の趣旨でございます。どうぞよろしくお願い致します。

庄山委員長 たくさんの予算を執行していただく方向にお進めいただいております、ありがたく思っております。私と致しましては、一年あるんですが、美里地域の義務教育学校の開校については、なんとしても成功させなければいけないと考えております。小中一貫教育を始めて3年目に平成28年度はなるわけでございます。小中一貫教育について、津市はいろんな形があるわけですが、この美里での形については、三重県でもありませんし、今のところ建物とかプールとかは十分準備をさせていただいておりますが、学校の中身、教育課程等については、校長先生をはじめ先生方の中で十分に議論が進んでいる状況にはないのではないかと感じております。教育委員会ではいろんなご指導をいただきまして進めてもらっているんだと思うんですが、例えば、始業式、終業式を合同で開催すると、小学校1年生から中学校3年生まで一同に会して校長先生のお聞きするとなると、校長先生としては随分話が難しいだろうなと思います。一番大事なところは、教科でございまして、教育課程は文部科学省が示しておるわけで、それにしても、小中一貫教育で、例えば、中学校の理科の先生が小学校の理科の授業を

するとか、そういうところが目指すところではないのかなと思うんですけども、そういうような様々な教科ごとの取組において、小学校1年生から中学校3年生までを通して、どういった子どもの姿で中学校を卒業させるか、そのような話し合いが先生達の間でまだまだ不足しているのではないかと思います。この平成28年度は、夏休み等の長期期間を利用して、しっかりと話し合っていたいて、平成29年4月にはしっかりとスタートできるようお願いしたいと思っております。それから、2つ目には、学力向上なんですけど、こちらについては何度も何度も話し合いをしているわけですが、新しい授業改善マニュアルと家庭学習マニュアルを作っていただくということで、作っていただくのは素晴らしいことだと思っておりますが、それを各学校がどのように活用ができるのかなと思います。来年度はそれに向けての取組をしっかりと各学校への指導をしていって欲しいと思っております。その2点については、私と致しまして、平成28年度に特に力を入れて欲しいと思うことです。

市長 ありがとうございます。前段の美里の義務教育学校については、この議会でもだいぶ議論が生まれて、議会からも注目されております。教育委員会に対して、本当にいい学校にするにはどうすればいいのか、加速度的、真剣に考えて欲しいと考えております。県教委の人事も含めてなんですけど、いろいろ教育委員会にお願いをしておりますので、段々とそういうムードになってきたのかなと思っております。庄山委員長おっしゃいますように、まだまだのところもありますから、是非お願いしたいと思っております。その際、まだまだ分からないことが多すぎて、それを一つ一つ解決していくのに、分からないから公表するのを止めておこうといった完璧主義になりますと、開校までの1年の間で水面下に潜っておって、最後に美里の義務教育学校はこんなになりますよというのではちょっと遅いと思っております。もっと情報発信をして欲しいなと思っております。開校1年前から美里の義務教育学校の姿が段々見えてくるようにして欲しいなと私からの意見として申し上げておきます。是非、お願いしたいと思っております。

教育長 県教委につきまして、人事はかなりお考えいただいております。例えば、長野小学校の複式の対応については、ルールを外れてよくしていただいております。教育の中身について、これからこちらで検討しなければならないのは、今、アドバイザーに来ていただいてやっているんですけど、それももうちょっと突っ込んで、市教委が9年間カリキュラムを検討しつつ、4校の先生達もやるんですけども、アドバイザーをどういうふうに入れていったらいいのかちょっと研究した上で、年度途中で取組を考えなければならないというのも実はありますので、それも含めてなるべく早く公表できるようにしていきたいと考えてお

ります。

市長 出来たものから順番にオープンにしていく。例えば、ご心配の通学路については、こういうふうにしましたのでとか、広報なんかも有効に活用して、そういうのを一つ一つ整理したものを順番に発表していただくようお願いします。定例記者会見でもしたらどうです。

上島委員 一番心配しているのは、9年間のスタンスで、教員が見られるのかということです。やっぱり学校を作るのは人やで、その人の意識が変えられるかどうか大きな点です。そういった面で、例えば、特別教育支援員、確かに津市は素晴らしい人数を確保してもらっていますが、じゃその質はどうかというと、本当に子どもの思いに立てた動きができるかどうか、そういった視点で今後メスを入れていく必要があるんじゃないかなと思います。こういった方々の研修を充実させるであるとか、あるいは任用の仕方を考えるとか、そういったことをしていかなかったら、今後は、せつかくある財産を活かす方法が大事になってくるんじゃないかなと思います。一人の教師で子どもは変わります。同じように一人の支援員で子どもは変わります。そういった意味での質の高さを今後求めていく必要があるのではと考えております。

市長 おっしゃるとおりですね。

教育長 現在も勤務の枠内で随分研修は増やしてきておりまして、特別支援のチームがちゃんとやっているんですが、十分かと言われると確かに十分ではないところもありますので、総数と中身のバランスを見ながら取り組んでいます。

市長 さすがに166人となるといろんな支援員の方がいらっしゃると思いますが、ある程度「高み」を目指し、いい仕事をしている支援員のやり方を、皆がそんなふうになっていくようになると思います。いかかですか。

松本委員 エアコンが始まったりとか、いろんな施設面でもたくさんの予算を付けていただいて、そういったものが学力向上に繋がっていくということが、大きな成果が期待出来るということだと思いますので、学力向上が中心に見えてくるような予算にしているのかなと思います。学力というのは、総合的な学力ということですので、必ずしも、学力学習状況調査の点だけに見えてくるものでもないと思うんですけれども、学力成果といいますか、記録が見えるというのが、子どもたちが協働して何かをする、課題を解決していく中で一人ひとり

がどういう力を、学んだことを結果として出していけるのかというのが見えると、そういう一人ひとりのペーパーテストではないところの学んだものが見えてくると思います。授業改善マニュアルを作ってもらおうということですが、そういう中でも、ペーパーテストに現れるのとはまた違うところで、教師が自分の授業をどういうふうに変えていったらいいのかというものの評価が出来るようなマニュアルになっていったりとか、学力向上、いろんな面で繋がっていけるような形になればいいなというふうに考えています。

市長 そうですね。今の学力向上のこういうことを進めるということの中身が大切だというお話だと思いましたので、そのとおりだと思います。是非、今の御意見も踏まえてよろしく申し上げます。

滝澤委員 すみません。数字に目が行ってしまうんですけど、ハード面の教育環境の整備に15億ですよ。津市の教育委員会が重点的に取り組む学力向上の推進事業に4億なんです。工事代とかのハード面が非常に高いというのは分かるんですけど、もう少しハード面だけではなく、ソフト面の充実、先程から出ております質の向上ですとか、それから、学力の向上にまい進出来る先生方の体制づくりとか、人の配置、増やせばいいというものではないんですけど、雑用を減らすためにはある程度何らかの補助をする人なり、何らかの方法が必要なわけで、学力向上を重点的に行うためには、やはりある程度の環境整備、先生がそこに集中出来るような体制をとるような工夫が必要なんじゃないかと思うんです。それで4億かという感じなんですけど、出来たら私はその辺、先生が授業とか、授業づくりとか、人づくりにまい進出来るような環境整備と先生の研修、相談できる体制をさらに充実するとかですね、授業改善マニュアルにつきましても、作ったら終わりではなくて、いかに先生方に浸透させて、授業のやり方を実際に変えていくための支援というか、そういうための予算、もうちょっとやっぱり学力向上のソフト面に向けた資金配分が本当はお願いしたいところなんですけど、限りある資金ですので、致し方ない部分はあるんですけど、次年度以降また、検討をお願いしたいなと思っております。

市長 ソフト面のお金のかけ方というのは本当に、二つくらい難しいポイントがあって、一つはハードだとこれは地方債という起債事業になって、借金が出来るということで、何年かをかけて返していこうということが出来るんですが、ソフトはそれが出来ないということと、もう一つは、県教委が本来やるべき加配、職員の加配、教職員の加配が、なされない状態で津市が、市単独でどういう加配をしていくか、あるいは支援員をどう付けていくかみたいところがあって、本

来やっぱり県がもうちょっとやってくださると我々も楽になるんだけどという感じがあります。ただですね、今、滝澤さんがおっしゃったようなところは、教育現場で実際にすごく起こっている話で、是非、我々もいよいよ教育大綱を書く際には、もうちょっと現場の生の声を聴いてから議論するといいと思うんです。現場がどれくらい忙しいかというのはよく聞きますし、議会なんかでも出ます。現場の先生がこんなに忙しい、多忙だと、現場教員多忙。それがどういうふうに忙しいのかというのを、もうちょっと現場の教員から直接聴いたり、あるいは、校長先生から見てどうなのかというところを、もうちょっと生の声を聴きたいなという感じが今のお話に関連しているところでもあります。施設関係は、苦しいんですけども、とにかく平成32年まで合併特例債が活用できる間は出来るところまでやろうということで、15億、これは合併した年だったか、4億何千万という予算だったんですね。

教育長 そうでしたね。

市長 それが15億まで、一番多い時で17、8億までいっていることがあるんですが、お金をかけるべき時はかければよいと思うんです。ただ、これは私もまた意見として言っておきますけど、少額の予算で対応出来るんだけども手間がかかることを教育委員会はもうちょっと頑張っただけ欲しいと思います。というのは、地域懇談会に行くところこういう話があるんですね。こないだも栗真小学校ですけど、地域の方々が「市長、うちの校長室のカーペットがはげとるの、栗真のイメージが悪くなるから、うちの小学校の校長室が直らんというのは、やっぱり、栗真として困る。」というふうに言われるんです。校長先生じゃなくて、地域の方が言われるんです。前教育次長さんが学校長をされている橋北中学校でも「掃除のモップを買う金がないということを学校が言っているんだけど、市長、もうちょっと金付けてやって欲しい。」みたいな話が出たりとかします。修繕とか道具だとかその辺はもうちょっとお金が付いてないはずがないので、これはやっぱり何か執行に問題があると思うので、是非ぜひお願いしたい。

教育長 はい。

市長 別に教育委員会だけの問題じゃないんですよ。同じような話は他の所管のところでも、聞くことは聞くので。

教育長 実は今のお話の中で、小破修繕、確かにちょっと旧津の部分が特に仕組みがまずくて、どこに原因があるのかというのは、金だけではなくて、どういうふ

うに要望を吸い上げて、それをどういう優先順位を付けて実施するかという仕組みがちょっと出来上がってなかった部分があるので、今回の人事の配置の関係を少し増員ではなくて、中身を見直していただいて、それは対応出来るようになりましたので。小破修繕は、お金も少しは要りますけれども、工夫をしていきたいなというふうに考えていることです。それで、施設整備なんですけど、実は学校の先生たちが一番喜ばれるのが、施設整備の部分でありまして、やっぱりきれいになるというのはとても大事なことで、これまで南が丘、戸木小学校、それから美里中学校で、投資をしていただき、学校がきれいになるととても嬉しい。それで、4億の方は、これは金額だけではなくて、市教委の努力が半分要りますので、お金が付けば良くなるかということでもないので、滝澤委員おっしゃるように、もう少し伸ばすためには、もうちょっと市教委が汗をかかないといけないことがたくさんございますので、これは来年に向けてちょっとそういうふうに考えていかないといけないなと思います。今特に危惧しているというか、気になっていましてのは、平成29年度に向けては学校支援地域本部のような地域の力をお借りするところに目を全然開けてない、これはどういうふうにしたらいいのかという問題を考えないといけないというのが一つあります。もう一つは三重大連携なんですけど、三重大が平成29年に、教職員大学をつくられることになるんですけど、これをチャンスにとらえて三重大とどう連携するかと。これもお金だけの問題じゃないので、仕組みを合理的にどうするかというのを考えないといけないので、今一生懸命、委員に入っていていただいてやっているところ、いろいろ考えているところなんです。これも十分研究をして来年度やっていかないといけないなと。それと、市長の方から出ました現場の教員が負担軽減になるにはどうしたらいいのか、これも大きなテーマで、ここの部分は是非どうしたらそういうふうに関心してもらえるのかというのを十分に検討しないといけない。現場の先生は少し何か手分けして時間が出来たら、必ず別の仕事で埋めてやっぱり忙しくなられますので、それはどうするとそれが一番効果的にあるいは先生達に良くなるのかというのは、これは来年度に向けて是非考えていかないといけないテーマですので、その取組をしていかないといけないと思います。

市長 これで一通り回りましたが、他に今までの内容を踏まえて御発言を。

上島委員 先程もありましたが、小中の義務教育学校というのは、三重県で初めて。

市長 初めてですね。

上島委員 はい。全国的にも珍しいです。これを成功させるかどうかというのは、国の威信に懸ってくると思います。ですから津市としては本当に、今津市でここへ設置するとして、本当にこれが、本当の意味の義務教育学校に、ただ、小学校、中学校が寄ったのではなくて、本当に9年間の学校が出来たんやということを、今後の津市の教育のために、非常に大きな事になってくるのではないかと考えています。

市長 ですから、見える化というのが必要で、教育委員会さんの中の議論も大切だし、それはそれでやっていただかないといけないんですけども、やっぱり名松線が明後日復旧するんですけども、名松線の復旧に向けてずっとシリーズでいろいろなことを広報してきたんですけども、それぐらいのものと違うかという感じがするのね。美里の義務教育学校、三重県で初めてつくってます。No 1、Vol 11から入って、ずっと毎月のように連載してもいいぐらいの話じゃないかと僕は思っています。言われないと、あまりしないでしょ。

教育長 そうですね。ずっとやらないといけないのが、教育委員会でも出たんですが、小中一貫の方針というのは、小中一貫の中の類型の一つで、小中一貫校があったよねと、小中一貫の義務教育学校出来たんだから、義務教育学校としてはどういう形のものでどうなのというのは、ちゃんとやっぱり出しなさいよというようなお話もいただいていますので、それもちょっと並行して出していきたいと思います。

市長 義務教育学校の形ありきではないと思うんですけどね、美里の義務教育学校をどうしたいから、帰納法的に出てくると思うんですけども。多分でもすごくいい話やと思う。実際はもう後1年でつくるんやぞというところまで来たら、尻に火が付いたという言い方は良くないですが、実際にこう、ドライブがかかっている状態ですからね。是非お願いしたいと思います。ぼちぼち予定してありました時間が来ました。今日は短かったんですけど、あと何かこれだけは、ということがあれば御発言ください。よろしいですか。私から一つだけ。公民館は、1回ここでも議論しましたがけれども、あり方検討委員会にしました。この理由は、やっぱり新しい時代の公民館をどうつくっていくかということ、箱物を作り替えていく前にしっかりと議論をしておかないと、やっぱり、too late 遅すぎる。まあ先に箱物を作っちゃって、昔と同じような箱物を作っちゃって、あれ、ということになるといかんということで、それであえて中身から入ろうというふうにいたしましたので、この点についてもまた引き続きこの教育会議でもやればいいと思いますし、教育委員会の中でも議論していただきたい。それは実は、

教育委員会の中だけで留まらないと思いますのは、コミュニティ施設のあり方とかですね、もっと言えば高齢者の健康づくりだとか、ものすごく広がるんですよ、公民館は。そういう舞台なんですよ。ですから、公民館のあり方というのは、本当に新しい時代のこの地域のコミュニティのあり方みたいなところ、あるいは、生涯学習ですから、いろんな年代の方の学習のあり方みたいなところにも繋がると思うんです。是非これは、また議論を深めながらお願いしたいと思います。

教育長 そうですね。はい。

市長 よろしいですか。では以上で1番の平成28年度に向けてというのは終了したいと思います。2番のその他に入りますが、委員からなにかございますか。私からは、次回、是非一度、土曜授業をやりたいんですが、これは予告編ですが、これはなぜかと言うと、土曜授業については、三重県から何となく、何となくではないな、通知があって、やりなさいよと、やることをお勧めになる通知が2年前でしたか。

教育長 そうですね、2年くらい前に

市長 2年くらい前にありました。その後、各自治体でやってきて、いろいろな成果と、いろいろな問題点がもう既に出ているということで、何故次回やりたいかと言うと、これを一回きちっと報告してもらって、それで逆に三重県教委へ返さないかんと思うんです。こういうことが起こっていますよ、で三重県はやれと、やったらええやんて言っただけで、その後いろんな問題について個別に言いに行っても、いやいやそれは市町さんの判断でとかいうふうな話が多いので、これは一度きちっと、津市総合教育会議発でもいいし、教育委員会発でもいいんだけど、三重県に、最終的には予算要望なんかの時でもいいと思うんです。きちっとやっぱり言わないといかんかなという感じがしていますので、そういう趣旨がありますので、事前にしっかりと分析をしておいてもらって、今年度までのところもね。

教育長 はい。

市長 それが1点と、教育大綱を作るに向けて、さっき一つ学校の現場の先生の声なんていう話もありましたが、我々も直接いろんなところで聴いていくようなことをやりながら、それを一度集約をして、どこかの、夏ぐらいのタイミングが良いかな。総合教育会議に現場からはこんな声が届いていますみたいな形を、

我々自身も聴くし、事務局が聴いている話も含めて、学校管理職の人達とかP T Aとか、学校現場の先生、そういう人達の生の声を聴きながら、我々の議論だけで作る大綱というよりも、もう少し、あんまり作文にならないような血の通った大綱にしたい、こういうふうに思っていますので、各委員に是非御協力をお願いしたいというふうに思います。私からお願いしたいことは以上であります。

よろしいですか。それでは、事務局にお戻しします。

教育次長 ありがとうございます。それではこれで、本日の事項は全て終わりましたので、前葉市長から閉会のご挨拶をお願いいたします。

市長 では、これをもちまして、第11回津市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございます。

各委員 ありがとうございます。